

2018年5月31日

パナソニック株式会社
 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社
 メカトロニクス事業部 モータビジネスユニット

ACサーボアンプ MINAS A6NE、A6NFシリーズ、 ソフトウェアバージョンアップ(Ver1.23)についてのお知らせ

拝啓 新緑の候、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 さて標記の件、下記の通り、MINAS A6NE、A6NF シリーズのソフトウェアを変更いたします。
 何とぞご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

—記—

■対象機種：MINAS A6NE、A6NFシリーズのアンプ全機種

(品番) M*DL***N*

Mから始まり、左から3桁目・4桁目がDL、8桁目がN

■変更内容・理由：機能向上のため、ソフトバージョンを Ver1.22 から Ver1.23 に変更いたします。

No.	機能	従来	変更後
		Ver1.22	Ver1.23
1	停止機能付きラッチモードの 機能拡張	トリガ信号選択 EXT1/EXT2/EXT3	トリガ信号選択 EXT1/EXT2/EXT3/TLC TLC:トルク制限中信号出力
		無限回転軸では使用不可	無限回転軸でも使用可
2	退避動作	未対応	対応
3	仮想フルクローズ制御機能	未対応	対応
4	2自由度制御時のトルク制御	未対応	対応
5	Pr5.09「主電源オフ検出時間」 設定範囲の拡張	設定範囲 70～2000 [ms]	設定範囲 20～2000 [ms]
6	Pr6.35「ハイブリッド振動抑制フィルタ」 設定範囲の拡張	設定範囲 0～6400 [0.01ms]	設定範囲 0～32000 [0.01ms]
7	原点復帰コマンドキャンセル時の アラーム変更	発生アラーム Err27.7(クリア不可)	発生アラーム Err91.3(クリア可)

※変更内容の詳細は次ページを参照ください。

【変更内容の詳細】

No.1) 停止機能付きラッチモードの機能拡張(Pr7.111)

RTEX 原点復帰コマンドの停止機能付きラッチモードで設定する停止トリガにトルク制限中信号出力(TLC)を追加しています。停止トリガに TLC を設定することで、TLC 検出時に上位装置からの指令を無視して TLC 検出位置で停止します。本機能は、TLC 検出時にすばやく停止させたい場合に有効な機能になります。
また、一方向へ無限に回転し続ける軸でも本機能を使用できるように仕様範囲を拡張しています。
仕様拡張になりますので、従来の仕様範囲で本機能をご使用の場合はそのままご使用いただけます。

No.2) 退避動作(Pr6.85, Pr6.86, Pr7.23, Pr7.112, Pr8.17, Pr8.18)

外部入力信号や通信異常検出、主電源オフをトリガとして、上位装置からの指令を無視して事前にパラメータで設定された移動量や移動速度に従いアンプが自動で動作する機能を追加しています。本機能は、垂直軸で上方へ退避させたい場合に有効な機能になります。

No.3) 仮想フルクローズ制御機能(Pr3.32, Pr6.98, Pr7.23, Pr7.110, Pr7.112)

一時的に外部スケールデータを使用せずに仮想的なフルクローズ制御を実現する機能を追加しています。モータ稼働範囲内にフルクローズシステムを構築できない領域があり、一時的にセミクローズ制御での動作が必要な場合に有効な機能になります。

No.4) 2自由度制御時のトルク制御

2自由度制御時(Pr6.47 bit0=1)にサイクリックトルク制御(CT)コマンドを受けた場合に、Err91.1(RTEX コマンド異常保護)を発生させずトルク制御に切り替わり動作できるように対応しています。本機能は、2自由度位置制御や2自由度速度制御とトルク制御を切り替えて使用する場合に有効な機能になります。
2自由度制御時にトルク制御を使用されない場合は、従来通りの機能をご利用いただけます。

No.5) Pr5.09 「主電源オフ検出時間」設定範囲の拡張(Pr5.09)

主電源オフ検出時間の設定範囲を拡張しています。主電源オフの検出を早めたい場合に有効な機能になりますが、本設定値を出荷値よりも小さい値でご使用になる場合は、お客様の電源環境でのマッチング確認をお願いします。
設定範囲の拡張になりますので、従来の使用範囲で本機能をご使用の場合はそのままご使用いただけます。

No.6) Pr6.35 「ハイブリッド振動抑制フィルタ」設定範囲の拡張(Pr6.35)

ハイブリッド振動抑制フィルタの設定範囲を拡張しています。ハイブリッド偏差の変化が生じる加減速時の振動を低減させたい場合に有効な機能となります。
設定範囲の拡張になりますので、従来の使用範囲で本機能をご使用の場合はそのままご使用いただけます。

No.7) 原点復帰コマンドキャンセル時のアラーム変更

原点復帰コマンドを原点検出から原点復帰完了までの間でキャンセルした場合に、クリア不可のアラーム(Err.27.7)が発生していましたが、クリア可能なアラーム(Err91.3)が発生するようにアラーム発生条件を変更しました。
本変更により、原点復帰コマンドキャンセル時にアラームが発生した場合でも電源再投入が不要となり、RTEX アラームコマンドによりアラームをクリアすることができます。

・詳細は SX-DSV03027 : 技術資料 (基本機能仕様編)、SX-DSV03028 : 技術資料 (RTEX 通信仕様編) を参照ください。

ORTEX関係資料ダウンロードページ

https://www3.panasonic.biz/ac/j/dl/manual/index.jsp?series_cd=3555

・Ver1.23に対応したセットアップ支援ソフトウェア(PANATERM)はVer6.0.1.10以降となります。
・従来のパラメータファイルをアンプに設定した場合、従来通りの機能をご利用いただけます。

■実施時期：2018年5月生産分より変更いたします。
ご連絡が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

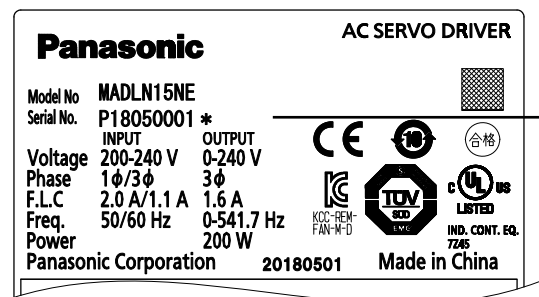
■確認方法：

・ソフトバージョン確認による方法

ソフトバージョンはセットアップ支援ソフトウェア(PANATERM)、
または、RTEX 通信コマンドで確認できます。

・製造番号(シリアルナンバー)より製造年、製造月を確認する方法

製品側面の銘板に記載の製造番号(シリアルナンバー)は下記の仕様になっています。



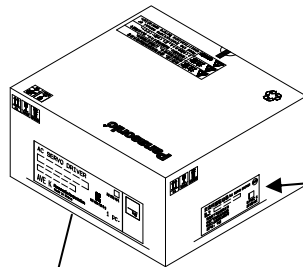
製造番号 (シリアルナンバー)

例 P18050001*

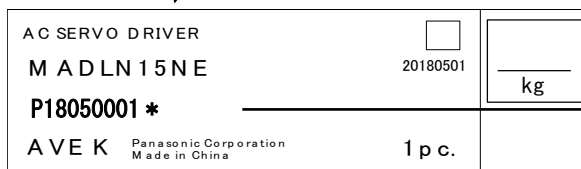
TTT 連番(4桁)
| 製造月(2桁)
製造年(西暦下2桁)

これらの
製造年、製造月を
確認してください。

梱包箱正面のラベルに記載の製造番号(シリアルナンバー)は下記の様になっています。



こちらのラベルには
記載していません。



製造番号 (シリアルナンバー)

例 P18050001*

TTT 連番(4桁)
| 製造月(2桁)
製造年(西暦下2桁)

これらの
製造年、製造月を
確認してください。

以上